

# 調 査 概 要

## I 年間調査テーマの選定理由

近年、我が国の農業を取り巻く環境は、食料自給率の低下、後継者不足、耕作放棄地の増加など、多岐にわたる課題が顕在化しており、これに加え、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢による影響を受け、飼料・原材料価格が高騰し、問題の深刻化が増している。

また、本市においても、農業者の高齢化の進展や、新規就農者においては多額の初期投資が必要であることや技術習得が難しいこと等、継続した経営が困難であるなど、様々な課題を抱えている状況にある。

そこで当委員会は、委員間での協議の結果、「農業について」を今期のテーマに設定し、特に、リニューアルされる農政センターの機能強化を中心に、市内の持続可能な農業形態の形成と、農業業界を取巻く課題解決に向けた取組について、当局から聴取するとともに、本市と類似の課題に対し取組を行っている自治体の先進事例等について調査を行うこととした。

## Ⅱ 調査の概要

### 1 本市の現状調査

現地視察及び当局からの説明聴取による調査

令和4年8月12日、本市の現状と課題を把握するため、農政センターの現地視察により所管事務調査を行った。

〈詳細は視察報告書を参照〉

調査目的	農政センターにおいて、今後の本市農業の成長産業化に資することを目的に、機能強化に向けてリニューアルプランを策定したため、当該プランについての説明を聴取するとともに、施設を視察し、本市農業施策の取組状況や課題を調査し、今後の施策展開に生かす。
調査項目	<ol style="list-style-type: none"><li>1 農政センターのリニューアルの方向性</li><li>2 農政センターのミッション・ビジョン・バリュー策定</li><li>3 リニューアル全体計画及び事業実施工程</li><li>4 スマート農業実証フィールド（実証試験の座組）</li><li>5 栽培試験事業 新たな生産モデルの創出（施設栽培・露地栽培）</li><li>6 農業者研修事業 新規就農者アドバンス研修</li><li>7 農業者研修事業 農業技師の技術力、指導力の強化</li><li>8 検討委員会について</li></ol>
現地視察の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div data-bbox="456 1214 847 1505"></div><div data-bbox="900 1214 1294 1505"></div></div> <p style="text-align: center;">【当局からの説明を聴取】                      【センターでの取組状況を視察】</p>

## 2 こゆ財団・新富町の取組事例の調査

令和4年10月11日にこゆ財団を視察し、農産物を中心とした地域の資源を活かすまちづくりについて調査した。

〈詳細は視察報告書を参照〉

<p>調査目的</p>	<p>こゆ財団では、地域の農産物や加工品のブランディング及び販路開拓、新規就農者の促進や起業家支援、スマート農業の実現に向けた取組などの農業を中心とした事業を展開するとともに、こゆ朝市をはじめとした関係人口の増加と地域コミュニティの活性化に向けた活動を行うなど地域の活性化及び域外から投資を呼び込むビジネスモデルのプロデュースを行っている。</p> <p>本市においても農政センターのリニューアルプランが策定され、「人と技」を活かした都市農業の拠点となるべく、本市農業の成長産業化に向けた取組を行っているため、こゆ財団及び新富町の取組・課題等を調査し、今後の施策の参考とする。</p>
<p>調査項目</p>	<p>1 農産物を中心とした地域の資源を活かすまちづくりについて</p>
<p>現地視察の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>【こゆ財団・新富町から説明聴取】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【現地視察・質疑応答】</p> </div> </div>

### Ⅲ 調査の総括

令和4年12月5日、当委員会において、年間調査テーマに基づく1年間の調査の総括として、委員間で意見交換を行い、次のとおり意見が出された。

#### 主な意見

- ・こゆ財団の取組は、地域の活性化に対して非常に取り組んでいており、参考になった。
- ・農政センターについては、予算が大きく増になっており、新たな取組がいろいろとできるようになり、現場を視察して職員のやる気も非常にあることが実感できた。
- ・我々が進めたいと考えていた有機栽培の圃場をつくるための転換農地も見ることができ、環境保全型農業について今後力を入れて取り組んでいくことが現地を見て認識できたので、非常によかった。